

01

大手町・丸の内・有楽町地区エリアマネジメント

—— 千代田区、東京都、日本
2000年～

世界都市東京都心における持続的発展

Key Issue

本地区は、東京駅と皇居の間に位置し、日本を代表するビジネスセンターである。高度成長期に多くのオフィスビルが建てられたが、夕方、休日に通人が少なく就労者以外の来訪が課題とされていた。その中で、まちの一体的な再開発にあわせて、にぎわい創出を目的として建物低層部の商業・文化用途への転換や歩行者空間の整備が進められてきた。これらハード整備とともに、まちの持続的発展に向けて、交流機能の強化、都市観光の促進といった新たな価値を創造するソフト面でのまちづくりが求められた。また、東京駅に隣接し多くの就業者・来街者を迎える都市として、従来以上に災害に強いまちづくりが求められた。

Project Approach

公民の合意形成にもとづく「面的なまちづくり」

地方自治体と地権者が議論し、公民協調（PPP）により、まち全体の将来像、開発誘導手法、デザインルールづくり、推進方策の検討が進められ、ガイドラインが制定された。このガイドラインのもと、まちの活性化やにぎわい向上を目指した地権者、事業者が積極的にコミットメントするエリアマネジメントが行われている。我が国で最も先進的なエリアマネジメント体制であり、快適な歩行者環境の整備、パブリックスペースの管理運営、駐車場附置義務地域ルールの策定、地区の企業・就業者のコミュニティ形成やビジネス創発、公的空間のイベント活用などの様々な取り組みが展開されている。

ハードとソフト両面からの災害に強いまちづくり

地区全体で防災力を高める様々な取り組みを行っている。地区内には、電力と水の自給システムを備えた防災拠点ビルが複数存在し、災害時には一時滞在施設として活用可能である。地区の事業継続計画も策定されており、関係者が協力して安心・安全なまちづくりを進めている。近年は、帰宅困難者の滞留状況、負傷者対応状況など、事業者が災害時に必要な情報を共有するための情報プラットフォームの運用を行っている。



大手町・丸の内・有楽町地区エリアマネジメント

まちづくりガイドラインによって、統一感のあるスカイラインの誘導や、低層部のヒューマンスケールの連続的な街並みを形成し、風格ある美しいまちづくりを進めている。
出典：時事



地区のメインストリートは、公有地、民地の境界にこだわらない一体的整備を公民が協力し、憩いの場やイベントの舞台という快適な交流空間を生み出した。

To the Next Phase

清掃・物流・警備等のインフラ維持管理用ロボットの導入、パーソナルモビリティや移動支援ロボットの実証実験、人流データベースの構築など、新たな都市・地域課題の解決に向けた取り組みを公民連携のもと進めていることで、持続可能なまちづくりを推進している。また、産学官による新たなビジネス創出を推進するための組織が設置されエコシステムの形成にも取り組んでいる。

Data

面積	区域面積 約120ha、建物延床面積 約810ha、建築棟数 約101棟（建設予定含む）
実施主体	大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会、千代田区、東京都 等
就業人口	約28万人（事業所数 約4,300事業所）
主な立地施設	美術館・博物館・劇場等 6か所 ホテル等 13か所、2,141客数 ホール・会議室 31か所 （2017年1月時点）

